

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 下水道推進課長 土肥 美実 電話番号 0852-22-5932

事務事業の名称	流域下水道高度処理事業	
目的	(1) 対象	穴道湖・中海周辺の住民
	(2) 意図	穴道湖流域下水道浄化センターの流入水の窒素及びリンを可能な限り除去し、穴道湖・中海の水質保全を図り、快適な水環境を提供する。
事業概要	穴道湖流域下水道浄化センターの放流水目標水質に適合した水質にして排水する。	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	流入水に含有する窒素の除去量	目標値	8.0	8.0	8.0	8.0	mg/ℓ
			取組目標値					
	式・定義	流入水に含有する全窒素量(T-N)－放流水に含有する全窒素量(T-N)	実績値	6.2				
			達成率	－	－	－	－	%
2	指標名	流入水に含有するリンの除去量	目標値	0.4	0.4	0.4	0.4	mg/ℓ
			取組目標値					
	式・定義	流入水に含有する全リン量(T-P)－放流水に含有する全リン量(T-P)	実績値	0.3				
			達成率	－	－	－	－	%

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b)(千円)	0	0
うち一般財源(千円)	0	0

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

窒素に関する放流水の目標水質T-N8.0mg/ℓに対し、放流水T-N6.2mg/ℓである。
また、リンは目標水質T-P0.4mg/ℓに対し、放流水T-P0.32mg/ℓであり、放流水質は良好な状態である。

6. 成果があったこと(改善されたこと)

窒素、リンともに放流水の目標水質を維持している。

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

- ①困っている「状況」
将来にわたり、確実かつ安定的に目標水質を守るための施設管理。
- ②困っている状況が発生している「原因」
穴道湖浄化センターは昭和56年に供用開始。建設から30年以上を経過しているため、施設の老朽化が著しい。
- ③原因を解消するための「課題」
厳しい財政状況のなかで、効率的かつ効果的に耐震化や長寿命化等を行う必要がある。

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

施設の耐震化やストックマネジメント計画に基づく長寿命化を計画的に行うことにより、下水道施設全体の持続的な機能確保を目指す。併せて、新たな高度処理技術の導入や段階的の高度処理等についても検討する。

9. 追加評価(任意記載)